福島大学生のスポーツ行動と体育観

新　谷　崇　一（一般体育理論・実技）

Ⅰ　はじめに

学生の体力不足，運動不足が叫けばれる現況にあって，学生の日常生活に「運動」はどのように位置づけられているのであろうか。また，その「運動」の方法，量はどのような実状にあるのか。

本研究の目的は，アンケート調査により現在の福島大学生（以下福大生と略）のスポーツ意識及びスポーツ活動の実態を把握すると同時に，一般教育科目として設置されている一般体育実技及び理論は大学1年生，3年生にそれぞれどのように位置づけられ，また係っているのかを解明することにある。

考察の基準は，主に大学1年生と3年生，及びその男女間に置き，また教育学部と経済学部という学部間にも置いて考察を行う。

調査の対象である学生は表Ⅰ・1の通りであるが，主たる対象者は一般体育実技・理論を半年間受講した1年生[1]と一般体育実技・理論を受講し終えた3年生[2]である。また，経済学部の夜間主コースにおいては3，4年生のみを対象とした[3]。

調査は，昭和58年9月に実施し，1年生に対しては一般体育理論の講義中にアンケート用紙を配布して回収，教育学部の3年生に対しては小学校課程の体育科教材研究の授業中に，また経済学部の3年生に対してはゼミの時間帯にアンケート用紙を配布して回収を行った。

集計は，授業の一環として一般教育ゼミ「現代社会とスポーツ」（担当：新谷）を受講する学生25名によって行った。

表Ⅰ－1　調査対象者数　　単位：人

学年＼学部 M・F	教育学部 M	教育学部 F	教育学部 小計	経済学部 M	経済学部 F	経済学部 小計	(夜)M	合計
1	146	182	328	240	13	253	一部延期生コースに含む	581
2	9	8	17	19	0	19		36
小計	155	190	345	259	13	272		617
3	112	177	289	94	11	105	(36)	394
4	3	2	5	16	2	18		23
小計	115	179	294	110	13	123	(36)	417(36)
合計	270	369	639	369	26	395	(36)	1,070

Ⅱ　福大生のスポーツ意識及びスポーツ活動について

表Ⅱ－1は昭和58年4～5月にかけて福島大学教育学部保健体育科で実施した福大生1年，2年のスポーツテストの結果と，19才，20才の全国の男女の平均値を示したものである。

これによると，福大生の体力は踏台昇降運動の一部を除いて男女ともほとんどの種目において全国平均を上回っている。しかし，運動能力である持久走，50m走，懸垂においてはほとんどの学部，学年及び男女にわたって全国平均を下回っている。体力測定においては全国平均を上回っているものの，福大生の運動能力は全国平均を下回っているというこの事実は何に起因するのであろうか。

これらの原因を学生の日常生活におけるスポーツ活動から探ってみると，まず図Ⅱ－1のように各学部及び各学年の男女において「運動不足を感じている」学生は60～90%にも達している。また，傾向として教育学部の1，2年生と3，4年生の男女の比較において，持に3，4年生に運動不足を感じる学生が多く現われてきている。また図Ⅱ－2の現在の健康状態についてみると，男女とも「普通」が半数近くを占めるが，「良好」の学生は特に1，2年生に多く，経済学部を除き3，4年生になるに従って減少している。「やや不調」，「悪い」と答えた学生は，逆に3，4年生になるに従って増加してきており，特に教育学部の3，4年生の男子(38.3%)，経済学部の1，2年生の女子(46.2%)においてはその傾向が顕著である。このように，福大生の大部分が運動不足を感じ，健康状態についても約35%の学生がやや不調及び悪いと自覚している。

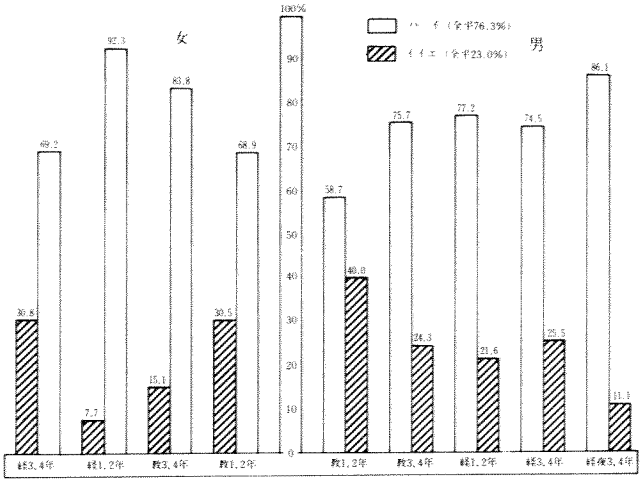
それでは，このような福大生の実状にあって，スポーツ意識及びスポーツ活動の実態はどうであ

ろうか。まず，スポーツの好き嫌いについてみると図Ⅱ－3のように各学部及び各学年の男女とも「スポーツは行うのも見るのも好き」という学生は全体で59.3%を占め，スポーツ好きなタイプに属する学生は全体で94.1%にも達する。しかし，〝いざスポーツを〟という行動面では，図Ⅱ－4のように「週1～2回」が全体で36.1%を占めるが，各学部とも3，4年生になるに従い「月1～2回」が増え，決して適した運動量とはいえない。また，教育学部と経済学部を比較した場合，教育学部の1，2年生の男女において「ほぼ毎日」運動を行っている者の割合が高く，教育学部の学生は経済学部の学生に比べ，スポーツを身近かに置いているように思われる。

次に，福大生は日常どのような方法でスポーツを行っているのであろうか。その方法の第一にあげられるものがクラブ活動と考えられる。図Ⅱ－5はクラブ所属率を示したものである。これによるとスポーツクラブに所属している学生は，教育学部の男子約37%，女子約27%，経済学部の男子約31%，女子約30%となっている。しかし，両学部とも3，4年生になるに従いスポーツクラブへの所属は減少してきている。次に，文化系クラブに所属している学生は，教育学部の男子約50%，女子約60%，経済学部の男子約36%，女子約35%となっているが，先のスポーツクラブへの所属とは逆に，3，4年生になるに従い文化系クラブへの所属が高くなってきている。

以上から，学生の運動量を考えると，「ほぼ毎日」，「週3～4回」運動を行っている者は必然的にスポーツクラブ所属者であると考えられ，クラブ所属の有無及びスポーツ系，文化系によって学生生活における定期的な運動の実行は限定されるようである。このことは，「クラブに入っていない人及び文化系クラブに入っている人は普段どのようなかたちで運動をしていますか」という質問に対して，表Ⅱ－2の通り「気が向いた時適当に運動をしている」(全体で29.9%)，「運動はほとんどしていない」(全体で21.1%)，「気晴らしのために走ったり，キャッチボールなど

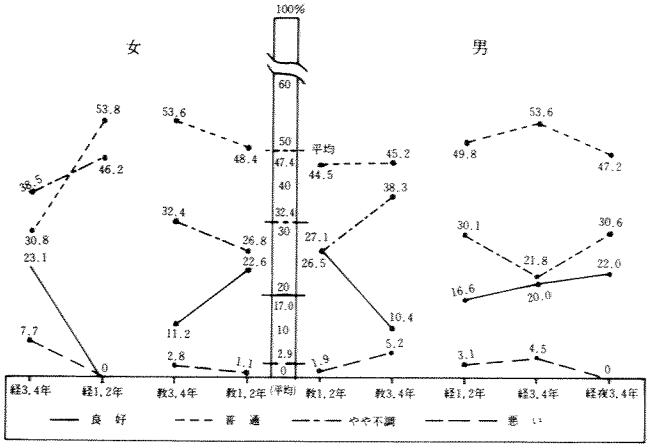
図Ⅱ－1　運動不足者



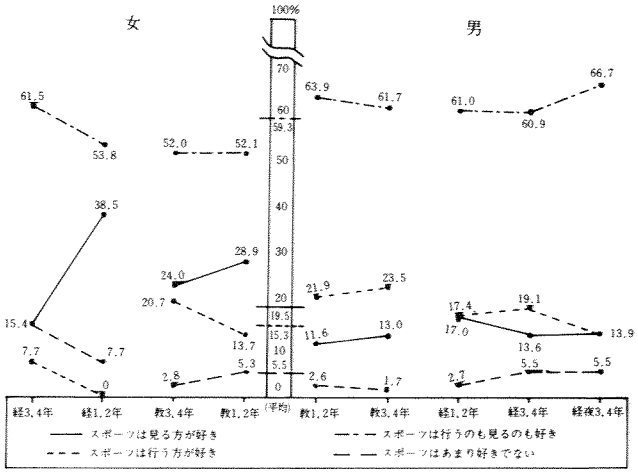
表Ⅱ－1　スポーツテストの記録　　(注)　19才全平，20才全平は各年令の全国平均値を示す

種目		男・女	男子								女子							
		学年	1年				2年				1年				2年			
		学部	19才全平	教	経	経(夜)	20才全平	教	経	経(夜)	19才全平	教	経	経(夜)	20才全平	教	経	経(夜)
体力	垂直跳び (cm)	平均値	60.8	64.6	62.7	64.8	59.9	63.5	62.1	65.0	42.1	46.3	46.7	46.4	42.1	43.8	39.1	42.9
		人数		169	155	60		134	228	60		173	6	10		124	7	23
	背筋力 (kg)	平均値	141.8	151.6	146.8	156.6	142.0	156.7	153.7	160.9	86.6	95.9	88.3	99.3	85.6	95.3	93.1	99.0
		人数		169	152	59		132	227	60		172	6	10		123	7	23
	立位体前屈 (cm)	平均値	14.1	16.7	14.5	14.5	13.9	15.5	14.8	15.2	17.3	18.5	21.3	16.0	16.2	17.4	15.4	20.4
		人数	62.5	166	151	60		134	227	59		172	7	10		125	7	23
	踏台昇降運動	平均値	62.5	62.8	59.3	58.4	61.9	63.0	64.2	59.2	59.3	58.0	65.3	58.0	60.3	61.4	60.8	64.8
		人数		170	154	58		132	225	58		172	5	10		124	7	22
運動能力	50m走 (秒)	平均値	7.3	7.3	7.5	0	7.3	7.4	7.3	0	8.8	9.0	9.0	0	8.7	9.0	9.1	7.4
		人数		163	156	0		127	218	0		168	7	0		119	7	7
	持久走，男子1500m 女子1000m (秒)	平均値	365.3	371.4	384.4	360.4	363.0	366.5	378.0	358.0	300.0	292.1	292.7	0	298.6	278.7	300.0	296.3
		人数		163	157	9		131	216	10		168	7	0		117	7	12
	懸垂 (女子は斜め懸垂) (回)	平均値	8.8	6.9	6.3	8.1	9.2	7.4	6.9	5.4	30.5	30.6	26.0	0	30.3	33.4	21.0	29.6
		人数		165	157	9		131	216	10		167	7	0		117	7	12

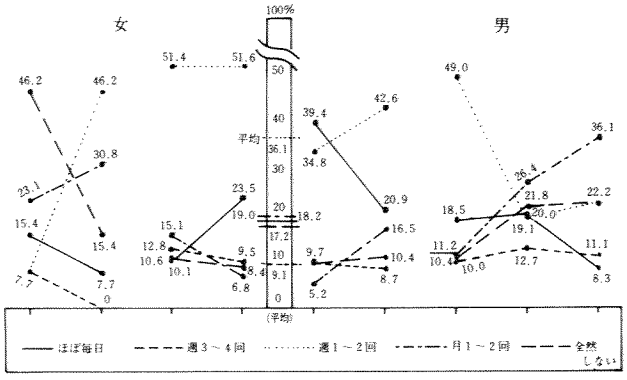
図Ⅱ－2　健康状態



図Ⅱ－3　スポーツの好き嫌い



図Ⅱ－4　日常の運動量



レクリエーション的な運動をしている」(全体で19.0%)が主な活動であり，定期的でしかも汗をかくような運動はみられないのが現状である。

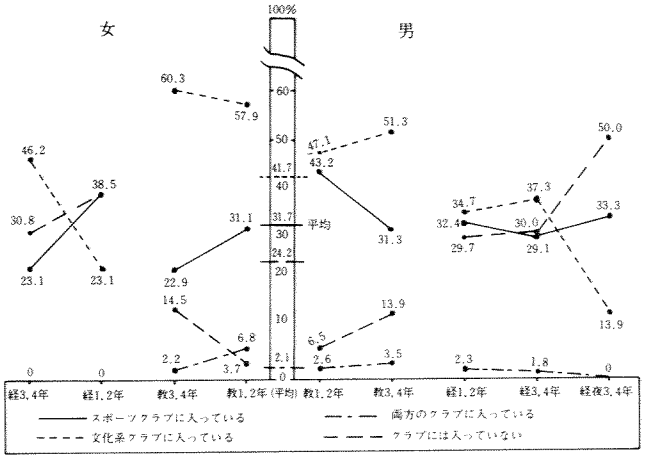
また，クラブに所属しない学生は教育学部に比べ経済学部に多く，男女とも約30%である。これらクラブに所属しない学生の理由は，表Ⅱ－3の通りで，「時間的に強制されるから」(全体で42.0%)，「自分に合ったものがないから」，(全体で30.6%)が主な理由である。これによると，必ずしもスポーツ嫌いからクラブへ加入しないとは言い切れず，課外活動の種類，内容，学生の生活時間等の複雑な問題が絡んでくるようである。

以上から，福大生のスポーツ活動の実態をまとめると，福大生の約95%はスポーツ好きなタイプであるが，必ずしもそれが日常のスポーツ活動へ結びつかず，その結果，全体で76.3%の学生が運動不足を感じ，健康状態においても全体で35.3%の学生がやや不調，悪いことを自覚している。

また，スポーツ活動の回数は「ほぼ毎日行っている者，または週3～4回行っている者」(全体で27.3%)はスポーツクラブ所属(全体で33.8%)による定期的な活動であると判断できるが，文化系クラブ所属者及びクラブ非所属者である学生(全体で65.9%)のスポーツ活動の方法は「気が向いた時適当に行ったり，気分転換のためレクリエーション的な運動」をしたり，また「運動はほとんどしていない」が全体で70%を占め，「積極的に，また定期的に行っている」という学生は全体で9.9%にしか過ぎない。

このようなことから，福大生の運動不足及び健康状態の不調を唱える原因を見い出すことができる。

図Ⅱ－5　クラブ所属率



表Ⅱ－2　クラブ非所属者，文化系クラブ所属者の運動の方法

項目 ＼ 男・女		男					女				全体平均%
	学部	教育学部		経済学部			教育学部		経済学部		
	学年	1,2年	3,4年	1,2年	3,4年	夜3,4年	1,2年	3,4年	1,2年	3,4年	
ランニングやウエイトトレーニングなど積極的に運動をしている	人	3	3	8	7	0	1	1	0	1	3.7
	%	3.6	4.0	4.8	9.5	0	0.9	0.7	0	10.0	
1週間又は1日のうち時間を決めて定期的に運動をしている	人	6	8	7	5	2	7	16	0	0	6.2
	%	7.2	10.7	4.2	6.8	8.7	6.0	11.9	0	0	
気晴らしのために走ったり，キャッチボールなどレクリエーション的な運動をしている	人	24	23	48	15	6	13	17	1	0	19.0
	%	28.9	30.7	28.7	20.3	26.1	11.1	12.7	12.5	0	
気が向いた時適当に運動をしている	人	31	26	62	24	6	48	59	5	3	29.9
	%	37.3	34.7	37.1	32.4	26.1	41.0	44.0	62.5	30.0	
運動はほとんどしていない	人	14	11	22	16	5	35	26	1	4	21.1
	%	16.9	14.7	13.2	21.6	21.7	29.9	19.4	12.5	40.0	
その他	人	5	1	8	2	2	12	13	1	1	7.3
	%	6.0	1.3	4.8	2.7	8.7	10.3	9.7	12.5	10.0	
無記不明	人	0	3	12	5	2	1	2	0	1	4.3
	%	0	4.0	7.2	6.8	8.7	0.9	1.5	0	10.0	
計　対象者数	人	83	75	167	74	23	117	134	8	10	
計　調査対象者全体に対する%	%	53.5	65.2	64.5	67.3	63.9	61.6	74.9	61.5	76.9	

表Ⅱ－3　クラブ非加入の理由

項目 ＼ 男・女		男					女				全体平均%
	学部	教育学部		経済学部			教育学部		経済学部		
	学年	1,2年	3,4年	1,2年	3,4年	夜3,4年	1,2年	3,4年	1,2年	3,4年	
体が弱いから	人	2	0	1	1	0	0	1	0	0	3.1
	%	20.0	0	1.3	3.0	0	0	3.8	0	0	
時間的に強制されるから	人	1	5	29	11	9	4	10	1	4	42.0
	%	10.0	31.3	37.7	33.3	50.0	57.1	38.5	20.0	100.0	
自分に合ったものがないから	人	5	4	32	10	1	2	9	3	0	30.6
	%	50.0	25.0	41.6	30.3	5.5	28.6	34.6	60.0	0	
学問に熱中したいから	人	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0.1
	%	0	0	1.3	0	0	0	0	0	0	
人とのつき合いは好きでないから	人	0	0	0	1	0	0	0	1	0	2.6
	%	0	0	0	3.0	0	0	0	20.0	0	
アルバイトなどで忙しいから	人	0	3	7	6	1	1	1	0	0	7.7
	%	0	18.8	9.1	18.2	5.5	14.3	3.8	0	0	
その他	人	2	3	6	3	7	0	5	0	0	12.6
	%	20.0	18.8	7.8	9.1	38.9	0	19.2	0	0	
無記不明	人	0	1	1	1	0	0	0	0	0	1.2
	%	0	6.3	1.3	3.0	0	0	0	0	0	
計　対象者数	人	10	16	77	33	18	7	26	5	4	
計　調査対象者全体に対する%	%	6.5	13.9	29.7	30.0	50.0	3.7	14.5	38.5	30.8	

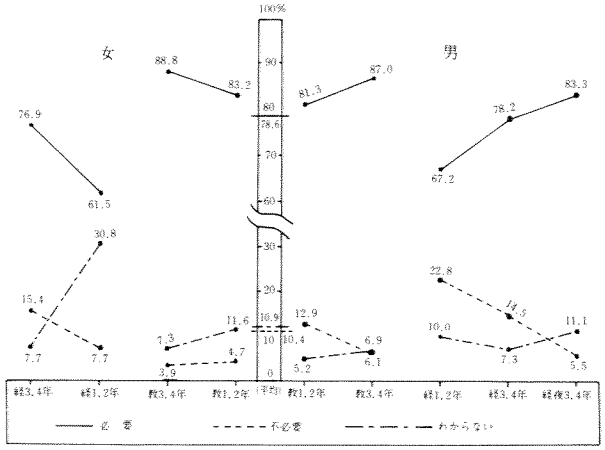
Ⅲ　福大生の一般体育実技及び理論に対する意識について

1．一般体育実技について

レクリエーション的存在として捕えられがちの一般体育実技であるが，福島大学における一般体育実技は教育であり，その目的は生涯教育の一環を担い，生涯スポーツへの基礎造りにある。しかし，体育実技（身体活動）であるが故に，そこには解放的な気分，身体を動かす歓び，楽しさが伴ない，レクリエーション的性格を強く備える。また，活動の結果としてある程度の健康維持，体力の向上にも結びつくものである。

そのような性格を備える一般体育実技を福大生は「一般教育」，または「運動」ということにおいてどう位置づけているのであろうか。まず，一般体育実技の必要性，不必要性からみると図Ⅲ－1のようになる。それによると，教育学部は全体で85.1%，経済学部は全体で73.4%が必要であると答えている。また，傾向として両学部とも一般体育実技を取得し終えた3，4年生にその必要性の度合いが高くなってきている。つまり，一般体育実技は学生生活におけるスポーツ活動の重要な一端を担っているものと考えられる。このことは，「なぜ必要であるか」という質問に対して，表Ⅲ－1のように「健康のため」（全体で24.6%），「運動不足解消のため」（全体で24.4%），「体力の維持，向上のため」（全体で17.5%），「学問だけでは人間として不十分だから」（全体で15.3%）となり，「一般教育」あるいは「生涯スポーツ」のためということが前面に出されるのではなく，教育である一般体育実技の授業の結果として得られるであろう健康，体力の維持，向上にその理由が強く求められていることからも理解できる。[4]

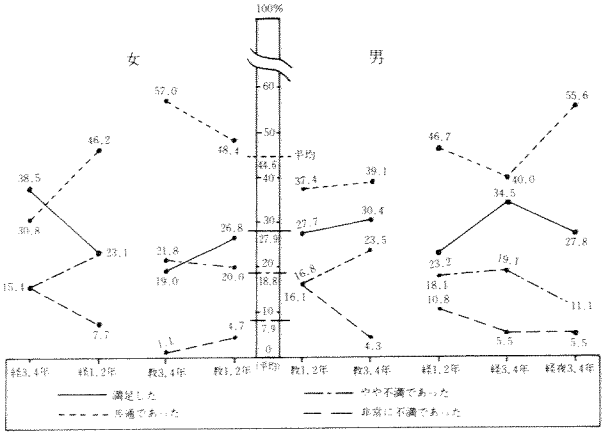
図Ⅲ－1　一般体育実技の必要性，不必要性



表Ⅲ－1　一般体育実技を必要とする理由

項目 ＼ 男・女		男		子			女		子		全体平均%
	学部	教育学部		経済学部			教育学部		経済学部		
	学年	1,2年	3,4年	1,2年	3,4年	夜3,4年	1,2年	3,4年	1,2年	3,4年	
体力の維持，向上のため	人	43	36	59	27	4	49	66	2	1	17.5
	%	21.0	22.2	23.0	19.7	8.3	19.4	23.7	14.3	5.5	
健康のため	人	45	28	60	26	12	68	57	4	7	24.6
	%	22.0	17.3	23.3	19.0	25.0	27.0	20.5	28.6	38.9	
心身をきたえるため	人	12	4	5	4	3	19	8	0	0	3.3
	%	5.9	2.5	1.9	2.9	6.3	7.5	2.9	0	0	
学問だけでは人間として不十分だから	人	41	30	40	18	7	42	53	2	1	15.3
	%	20.0	18.5	15.6	13.1	14.6	16.7	19.1	14.3	5.5	
運動不足の解消のため	人	33	38	61	38	10	50	57	4	7	24.4
	%	16.1	23.5	23.7	27.7	20.8	19.8	20.5	28.6	38.9	
生涯スポーツへの基礎として	人	11	18	16	10	6	13	21	2	2	8.9
	%	5.4	11.1	6.2	7.3	12.5	5.2	7.6	14.3	11.1	
技術獲得のため	人	8	1	2	2	0	2	5	0	0	1.0
	%	3.9	0.6	0.8	1.5	0	0.8	1.8	0	0	
ルールやマナーを得るため	人	5	4	8	6	2	3	8	0	0	2.3
	%	2.4	2.5	3.1	4.4	4.2	1.2	2.9	0	0	
その他	人	2	2	2	1	2	2	1	0	0	1.0
	%	1.0	1.2	0.8	0.7	4.2	0.8	0.4	0	0	
無記不明	人	5	1	4	5	2	4	2	0	0	1.6
	%	2.4	0.6	1.6	3.6	4.2	1.6	0.7	0	0	
複数選択可(延べ人数)	人	205	162	257	137	48	252	278	14	18	

図Ⅲ－2　一般体育実技の受講に対しての満足度



次に，実際に一般体育実技を受講して「満足したか」[5]，または「何かを得たか」についてみると，まず満足度は図Ⅲ－2のように各学部及び各学年の男女とも「普通であった」（全体で44.6%）が多く，2番目に「満足した」（全体で27.9%）となっている。「普通であった」という返答に対する解釈には，普通であるから現在のままで良いという捕え方と，普通であるということは授業に魅力がなかったとも解釈でき，今後一般体育実技の在り方に検討を要するものである。[6] また，「やや不満であった」と「非常に不満であった」という学生は全体で26.7%にも及んでいる。その不満の理由は表Ⅲ－2の通りで，「多人数のため運動量が少なかったから」(全体で25.9%)，「基本的な技術練習ばかりであったから」（全体で17.5%），「結果的にその種目が身につかなかったから」（全体で12.9%）が主なものとしてあげられる。特に1，2年生に多い「第1希望以外であったから」という理由は3，4年生になると減少している。このことは，受講種目の好き嫌いによる不満よりも，授業の内容，方法に深く関係した不満であることを意味し，今後の一般体育実技の在り方の検討に示唆を与えるものである。

また，3，4年生を対象にした「あなたは2年間一般体育実技を受講して何かを得られましたか」の質問に対して，図Ⅲ－3の通り得られた学生は全体で60.4%にも達するが，逆に得られなかった学生は36.1%と3人に1人の割合で存在する。

得られた学生のその内容は，「スポーツの楽しさやよろこび」(全体で28.9%)，「その種目の技術」(全体で26.2%)，「友人」(全体で19.5%)であるが，先の一般体育実技の必要性の理由に「健康のため」とか「体力の維持，向上のため」をあげているのと結果は一

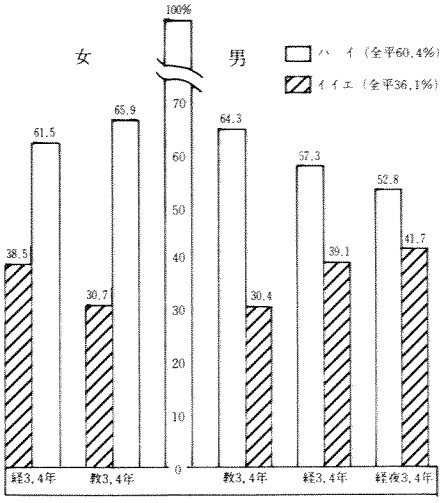
表Ⅲ－2　一般体育実技に対する不満の理由

項目 ＼ 男・女	人・%	男 子 教育学部 1,2年	男 子 教育学部 3,4年	男 子 経済学部 1,2年	男 子 経済学部 3,4年	男 子 経済学部 夜3,4年	女 子 教育学部 1,2年	女 子 教育学部 3,4年	女 子 経済学部 1,2年	女 子 経済学部 3,4年	全体平均%
授業内容は別にして，第1希望以外の種目であったから	人	16	3	12	0	0	8	2	0	0	6.7
	%	23.2	7.0	13.2	0	0	14.0	3.2	0	0	
基本的な技術練習ばかりであったから	人	9	10	17	7	1	4	10	2	1	17.5
	%	13.0	23.1	18.7	18.9	11.1	7.0	16.1	33.3	16.7	
指導をキチッとしてくれなかったから	人	8	7	4	4	1	4	4	1	0	9.4
	%	11.6	16.3	4.4	10.8	11.1	7.0	6.5	16.7	0	
技術の上達がみられなかったから	人	2	3	8	2	1	8	6	0	1	8.4
	%	2.9	7.0	8.8	5.4	11.1	14.0	9.8	0	16.7	
結果的にその種目が身につかなかったから	人	5	3	1	3	3	6	20	0	1	12.9
	%	7.2	7.0	1.1	8.1	33.3	10.5	32.3	0	16.7	
多人数のため運動量が少なかったから	人	7	7	27	11	2	13	12	2	3	25.9
	%	10.1	16.3	29.7	29.7	22.2	22.8	19.4	33.3	50.0	
正規の授業回数でなかったから	人	4	3	4	0	0	2	2	0	0	2.7
	%	5.8	7.0	4.4	0	0	3.5	3.2	0	0	
自分の積極性が足りなかったから	人	4	0	3	4	1	6	4	0	0	5.3
	%	5.8	0	3.3	10.8	11.1	10.5	6.5	0	0	
その他	人	9	6	13	4	0	6	0	1	0	8.8
	%	13.0	14.0	14.3	10.8	0	10.5	0	16.7	0	
無記不明	人	5	1	2	2	0	0	2	0	0	2.3
	%	7.2	2.3	2.3	5.4	0	0	3.2	0	0	
複数選択可(延べ人数)	人	69	43	91	37	9	57	62	6	6	

各学部及び各学年の男女とも大部分の学生が一般体育実技の必要性を認めており，その主な理由は「健康のため」，「運動不足解消のため」，「体力の維持，向上のため」である。しかし，実際の授業に対する満足度及び何かを得たかという問題になると，必ずしも学生の要求を満すものではなく，授業形態，内容の在り方，逆に学生の授業に対する姿勢の両面からの検討が要求される。

また，一般体育実技の必要性の理由と，受講した結果として得られたものに相違がみられるが，このことは一般体育実技の目標が生涯スポーツにあることを証明するものであり，学生に対して，一般体育実技の必要性の度合いを益々高めるものであると理解できる。

図Ⅲ－3　一般体育実技から何かを得たか



表Ⅲ－3　2年間で得られた内容

項目 ＼ 男・女	人・%	男子 教育 3,4年	男子 経済 3,4年	男子 経済 夜3,4年	女子 教育 3,4年	女子 経済 3,4年	全体平均%
その種目の技術	人	26	23	6	54	2	26.2
	%	27.4	25.3	26.1	32.1	20.0	
ルールやマナー	人	13	10	1	40	1	12.6
	%	13.7	11.0	4.3	23.8	10.0	
体力の向上	人	12	10	2	7	0	7.3
	%	12.6	11.0	8.7	4.2	00	
スポーツの楽しさやよろこび	人	23	26	6	43	4	28.9
	%	24.2	28.6	26.1	25.6	40.0	
友人	人	16	14	8	18	2	19.5
	%	16.8	15.4	34.8	10.7	20.0	
その他	人	5	4	0	3	1	4.3
	%	5.3	4.4	0	1.8	10.0	
無記不明	人	0	4	0	3	0	1.2
	%	0	4.4	0	1.8	0	
複数選択可(延べ人数)	人	95	99	23	168	10	

致していない。しかし，生涯スポーツを目標とする一般体育実技にあって，「スポーツの楽しさやよろこび」，「その種目の技術」が得られたことが主な内容としてあげられていることには，一応その目的を果しているものと考えられる。

また，一般体育実技で何も得られなかった学生の具体的な理由は調査項目からは得られないが，先の授業内容に対する満足，不満足などからある程度理解でき，[7] 今後の授業の在り方の検討が要求される。

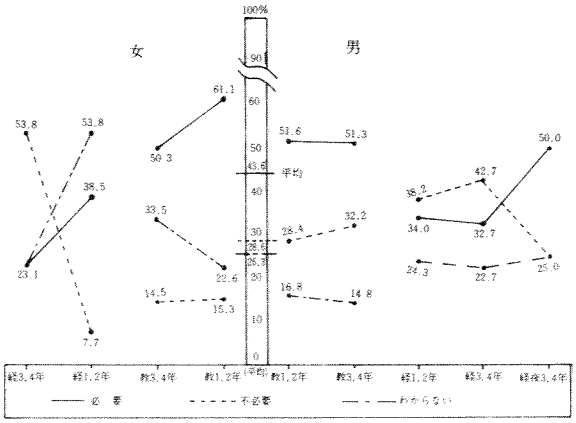
以上から一般体育実技に対する福大生の意識をまとめると以下のようになる。

2．一般体育理論について

その大学に確固たる位置づけがなされていないと，一般教育としての一般体育理論の存在価値の比重は低くなりがちである。福島大学における一般体育理論は4人の教官により担当されているが，4人の担当者間に共通のテーマを設定しての授業展開ではなく，それぞれの担当者の専門領域を生かしての講義内容である。[8] そのような一般体育理論の在り方について，福大生は一般教育科目の一つとしてどのように受け止めているのであろうか。

まず，一般体育理論の必要性，不必要性からみてみると図Ⅲ－4のように，全体で43.6%は必要，逆に全体で28.6%は不必要であると答えている。一般体育理論は，先の一般体育実技と比較してその必要性の割合は低く，しかも3，4年生になるに

図Ⅲ－4　一般体育理論の必要性，不必要性



表Ⅲ－4　一般体育理論への希望テーマ

テーマ ＼ 男・女		男		子			女		子		全体平均%
	学部	教育学部		経済学部			教育学部		経済学部		
	学年	1,2年	3,4年	1,2年	3,4年	教3,4年	1,2年	3,4年	1,2年	3,4年	
からだのしくみや病理について	人	25	19	22	10	5	37	30	2	0	16.8
	%	18.0	18.6	17.1	16.1	16.7	20.6	19.0	25.0	0	
健康について	人	32	31	37	16	9	50	50	2	3	24.8
	%	23.0	30.4	28.7	25.8	30.0	27.8	31.6	25.0	50.0	
トレーニングについて	人	22	10	23	7	7	14	10	0	0	10.2
	%	15.8	9.8	17.8	11.3	23.3	7.8	6.3	0	0	
応急処置について	人	30	11	18	8	4	36	26	2	1	16.8
	%	21.6	10.8	14.0	12.9	13.3	20.0	16.5	25.0	16.7	
ルールや指導法について	人	11	14	2	2	0	17	16	1	0	6.5
	%	7.9	13.7	1.6	3.2	0	9.4	10.1	12.5	0	
スポーツや体育の本質について	人	6	5	7	8	1	16	5	0	1	6.6
	%	4.3	4.9	5.4	12.9	3.3	8.9	3.2	0	16.7	
社会生活とスポーツの関係について	人	4	10	16	8	4	6	17	1	1	10.5
	%	2.9	9.8	12.4	12.9	13.3	3.3	10.8	12.5	16.7	
そ　の　他	人	0	1	2	1	0	0	1	0	0	0.5
	%	0	1.0	1.6	1.6	0	0	0.6	0	0	
無　記　不　明	人	9	1	2	2	0	4	3	0	0	1.8
	%	6.5	1.0	1.6	3.2	0	2.2	1.9	0	0	
複数選択可(延べ人数)	人	139	102	129	62	30	180	158	8	6	

従って不必要性の度合いが高くなっている。このことは，受講中の1年生にはまだその判断までの余裕はなく，受講後の3，4年生になってその存在価値が改めて問われた結果の傾向とみなされる。また，経済学部においては男女とも特に低く，その存在価値を問われるのが現状である。

不必要な理由としては，[9]「高校の延長にすぎないから」(全体で20.7%)，[10]「一般教養として体育理論は不必要だから」(全体で20.1%)，「将来あまり役立たないから」(全体で19.7%) などがあげられる。また，必要であると答えた学生の希望するテーマは表Ⅲ－4のように，「健康について」(全体で24.8%)，「からだのしくみや病理について」，「応急処置について」(全体で16.8%) など，医学生理学的分野に集中している。

以上のようなことより，学生にとって一般体育理論は実技に比較するとその比重は低く捕えられ，たとえその必要性を問われてもテーマの内容によって変化してくるものと考えられる。従って，今後の一般体育理論には，学生は現在何を一番要求しているのかの把握と，大学としての共通のテーマをどのように設定し，魅力ある一般体育理論としていくかの検討が要求される。

Ⅳ　ま　と　め

〝まとめ〟においては主に福大生の運動不足と一般体育実技の係りについて述べることにする。

福大生の94.1%がスポーツは好きなタイプにある。しかし，スポーツ活動の問題になると週1～2回が36.1%，月1～2回と全然しないが36.2%と非常に貧しい運動量である。このような現状から全体で76.3%の学生が運動不足を感じており，また35.3%の学生が健康状態にやや不調または悪いことを訴えている。

スポーツクラブ所属者はクラブ活動として定期的な運動を行っているが，文化系クラブ所属者及びクラブ非所属者は定期的で，しかも汗をかくような内容の運動までには至っていない。そのような状態にあって，1週間に1回（90分）の授業である一般体育実技は定期的で，しかも時々汗をかく唯一のスポーツ活動の機会であると理解できる。しかも，その傾向は1，2年生に比べ益々運動の機会を失った3，4年生に顕著である。

このような立場にある一般体育実技は今後どうあるべきであろうか。一般教育として存在する一般体育実技に対して，個人の問題として考えられる運動不足をどのように結びつけていくべきであろうか。学生は一般体育実技の必要性を「健康のため」，「運動不足解消のため」，「体力の維持，向上のため」に置く。しかし，2年間受講した結果得ら

表Ⅳ－1　一般体育実技の授業回数について

項目	人・%	男子 教育学部 1,2年	男子 教育学部 3,4年	男子 経済学部 1,2年	男子 経済学部 3,4年	男子 夜3,4年	女子 教育学部 1,2年	女子 教育学部 3,4年	女子 経済学部 1,2年	女子 経済学部 3,4年	全体平均%
適当である	人	105	62	182	67	20	149	134	9	6	64.1
	%	67.7	53.9	70.3	60.9	55.6	78.4	74.9	69.2	46.2	
少ない	人	47	53	74	41	16	39	45	4	7	35.2
	%	30.3	46.1	28.6	37.3	44.4	20.5	25.1	30.8	53.8	
無記不明	人	3	0	3	2	0	2	0	0	0	0.7
	%	1.9	0	1.2	1.8	0	1.1	0	0	0	
週2～3回	人	45	51	69	35	13	36	43	4	7	93.3
	%	95.7	96.2	93.2	85.4	81.3	92.3	95.6	100.0	100.0	
週4～5回	人	1	1	1	2	0	0	2	0	0	1.6
	%	2.1	1.9	1.4	4.9	0	0	4.4	0	0	
毎日	人	0	1	3	4	3	0	0	0	0	3.8
	%	0	1.9	4.1	9.7	18.7	0	0	0	0	
無記不明	人	1	0	1	0	0	3	0	0	0	1.2
	%	2.1	0	1.4	0	0	7.7	0	0	0	

表Ⅳ－2　現在の単位数の在り方について

項目	人・%	男子 教育学部 1,2年	男子 教育学部 3,4年	男子 経済学部 1,2年	男子 経済学部 3,4年	男子 夜3,4年	女子 教育学部 1,2年	女子 教育学部 3,4年	女子 経済学部 1,2年	女子 経済学部 3,4年	全体平均%
現在のままでよい	人	53	43	74	27	12	80	73	4	3	28.7
	%	29.0	31.2	26.1	22.0	30.0	35.7	35.8	26.7	21.4	
もっと単位数を増やすべきである	人	60	42	84	42	9	60	56	6	5	31.0
	%	32.8	30.4	29.6	34.1	22.5	26.8	27.5	40.0	35.7	
もっと単位数を減らすべきである	人	9	0	12	1	1	5	0	1	1	3.2
	%	4.9	0	4.2	0.8	2.5	2.2	0	6.7	7.1	
必修でなく全て選択制にすべきである	人	28	14	64	17	7	30	19	1	0	12.4
	%	15.3	10.1	25.5	13.8	17.5	13.4	9.3	6.7	0	
3年又は4年まで必修であってほしい	人	8	8	6	8	2	8	1	0	0	3.1
	%	4.4	5.8	2.1	6.5	5.0	3.6	0.5	0	0	
3年，4年からは選択の形であってほしい	人	23	30	41	27	9	35	53	3	5	21.2
	%	12.6	21.7	14.4	22.0	22.5	15.6	26.0	20.0	35.7	
その他	人	0	1	1	1	0	1	2	0	0	0.4
	%	0	0.7	0.4	0.8	0	0.4	1.0	0	0	
無記不明	人	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0.2
	%	1.1	0	0.7	0	0	0	0	0	0	
複数選択可(延べ人数)	人	183	138	284	123	40	224	204	15	14	

れたものはその必要性に反し，「スポーツの楽しさやよろこび」，「その種目の技術」，「友人」等である。

つまり，学生が一般体育実技に求めている健康，体力の維持，向上は必ずしも果されてはおらず，一般体育実技の目標である生涯スポーツへの基礎造りにはある程度果たされているように理解できる。従って，現行の一般体育実技は福大の一般教育としての役割は果しているものの，学生が望む運動不足への解消等までは必ずしも至っていないのが現状である。個人の問題として捕えられる運動不足を一般体育実技によって解消させることを加味するか否かは，現行の一般体育実技の在り方そのものに大きく影響を与えるものである。

現在の週1回の授業時間数について「適当である」と答えた学生は全体で64.1%，「少ない」と答えた学生は全体で35.2%(表Ⅳ－1)であり，「少ない」と答えた学生は週2～3回を希望(全体で93.3%)している。「少ない」という傾向は1,2年生より3,4年生に多くみられ，3,4年生は運動不足解消の場を一般体育実技に求めていることがわかる。このことは，表Ⅳ－2の「1年間で1単位，2年間で2単位必修というあり方についてどう思うか」という質問で，「3,4年からは選択の形であってほしい」という学生は全体で21.2%であるが，特に3，4年生に希望者が多いことからも理解できる。

以上のようなことより，一般体育実技は一般教育としての役割は十分に果しているものの，学生の運動不足と一般体育実技の係りにおいては必ずしも学生の運動不足の解消の場とはなり得ていない。しかし，一般体育実技の必要性または期待度は非常に高い。

今回の調査結果は今後一般体育実技の在り方において，授業回数，授業内容，単位数との関係において一般体育実技の受講の機会を3，4年生まで延長するなどの根本的な検討が加えられ始めても良い時期であるということを示唆しているものと受け止めることができる。[11]

最後に，運動不足解消の早急な解決策はスポーツを一緒に行う仲間を早く見い出すことである。福大生の75.5%が何らかのクラブに所属している。これは，スポーツをする一番身近かな仲間であるといえる。

福大生，全員の健康を願うものである。

本研究の調査に御協力いただいた諸先生，ならびに集計に携った学生諸君に感謝の意を表す。

注

(1)　対象とした2年生は1年生の授業時間帯に受講していた一部の学生であるが，調査の対象者

として加えた。

(2) 対象とした4年生は3年生の授業時間帯に受講していた一部の学生であるが，調査の対象者として加えた。

(3) 夜間主の1，2年生においては区別して対象者とはせず，昼間主の一般体育理論の授業を受講している一部の夜間主学生のみを昼間主に含めて集計を行った。

(4) 不必要と答えた学生の理由は，参考資料の表1を参照。

(5) 1年生は半年間の受講による満足度であり，3，4年生は2年間の受講の平均である。

(6) 種目数，集中方式等の問題についての資料は参考資料の表3と表4を参照。

(7) 表Ⅲ－2の他，表Ⅳ－1等を参照。

(8) 昭和58年度の一般体育理論のテーマは，「健康生活論」，「からだと運動」，「運動と健康」，「現代とスポーツ」であった。

(9) 参考資料の表2を参照。

(10) 不必要な理由の1位は「高校までで よい」(全体で25.4%) であるが，この割合は経済学部の1，2年生の女子1人分 (100%) が含まれて高率となったもので，順位からは除外した。

(11) 参考資料の表3と表4を参照。

参　考　資　料

表1　一般体育実技の不必要な理由

項目	男・女	男子					女子				全体平均%
	学部	教育学部		経済学部			教育学部		経済学部		
	学年	1,2年	3,4年	1,2年	3,4年	夜3,4年	1,2年	3,4年	1,2年	3,4年	
高校の延長にすぎない	人	6	3	17	6	0	3	2	1	0	24.6
	%	25.0	30.0	26.2	40.0	0	25.0	25.0	50.0	0	
週1回の授業では少ないから	人	1	4	6	4	1	1	2	0	1	21.8
	%	4.2	40.0	9.2	26.7	33.0	8.3	25.0	0	50.0	
大学は専門性を高める場であるから	人	8	3	20	1	0	2	1	0	1	20.0
	%	33.3	30.0	30.8	6.7	0	16.7	12.5	0	50.0	
将来役に立たないから	人	3	0	3	2	0	0	0	0	0	3.4
	%	12.5	0 0	4.6	13.3	0	0	0	0	0	
運動はきらいだから	人	3	0	7	1	2	5	0	1	0	20.9
	%	12.5	0	10.8	6.7	66.7	41.7	0	50.0	0	
その他	人	2	0	11	2	0	1	2	0	0	8.0
	%	8.3	0	16.9	13.3	0	8.3	25.0	0	0	
無記不明	人	1	0	1	1	0	0	1	0	0	2.8
	%	4.2	0	1.5	6.7	0	0	12.5	0	0	
複数選択可(延べ人数)	人	24	10	65	15	3	12	8	2	2	

表2　一般体育理論の不必要な理由

項目	人・%	男子 教育学部 1,2年	男子 教育学部 3,4年	男子 経済学部 1,2年	男子 経済学部 3,4年	男子 夜3,4年	女子 教育学部 1,2年	女子 教育学部 3,4年	女子 経済学部 1,2年	女子 経済学部 3,4年	全体平均%
高校の延長にすぎないから	人	11	6	9	6	3	8	10	0	3	20.7
	%	19.6	15.0	8.3	11.8	33.3	22.9	32.3	0	42.8	
高校までで よいから	人	14	3	19	3	0	11	4	1	2	25.4
	%	25.0	7.5	17.4	5.9	0	31.4	12.9	100.0	28.6	
将来あまり役立たないから	人	9	18	31	14	1	9	7	0	1	19.7
	%	16.1	45.0	28.4	27.5	11.1	25.7	22.6	0	14.3	
一般教養として体育理論は不必要だから	人	13	7	47	17	3	5	5	0	0	20.1
	%	23.2	17.5	43.1	33.3	3.3	14.3	16.1	0	0	
そ　の　他	人	4	6	3	9	1	2	4	0	1	9.7
	%	7.1	15.5	2.8	17.6	11.1	5.7	12.9	0	14.3	
無　記　不　明	人	5	0	0	2	1	0	1	0	0	3.0
	%	8.9	0	0	3.9	11.1	0	3.2	0	0	
複数選択可(延べ人数)	人	56	40	109	51	9	35	31	0	7	

表3　一般体育実技の集中化の問題

項目	人・%	男子 教育学部 1,2年	男子 教育学部 3,4年	男子 経済学部 1,2年	男子 経済学部 3,4年	男子 夜3,4年	女子 教育学部 1,2年	女子 教育学部 3,4年	女子 経済学部 1,2年	女子 経済学部 3,4年	全体平均%
種目が限られるから反対	人	53	44	109	38	17	81	62	7	5	40.6
	%	34.2	38.3	42.1	34.5	47.2	42.6	34.6	53.8	38.5	
運動不足になるから反対	人	7	8	28	12	4	9	16	0	0	6.4
	%	4.5	7.0	10.8	10.9	11.1	4.7	8.9	0	0	
お金がかかるから反対	人	25	17	27	9	2	15	10	0	1	8.5
	%	16.1	14.8	10.4	8.2	5.5	7.9	5.6	0	7.7	
授業時間が有効に使用できるから賛成	人	38	38	55	31	5	50	52	4	5	27.3
	%	24.5	33.0	21.2	28.2	13.9	26.3	29.1	30.8	38.5	
1年次集中，2年次種目選択という形式なら賛成	人	23	4	17	11	6	20	17	2	1	10.5
	%	14.8	3.5	6.6	10.0	16.7	10.5	9.5	15.4	7.7	
そ　の　他	人	6	4	19	7	2	7	13	0	0	4.2
	%	3.9	3.5	7.3	6.4	5.5	3.7	7.3	0	0	
無　記　不　明	人	3	0	4	2	0	8	9	0	1	2.5
	%	1.9	0	1.5	1.8	0	4.2	5.0	0	7.7	
対象　者　数	人	155	115	259	110	36	190	179	13	13	

表4　現在の一般体育実技の種目数について

項目	人・%	男子 教育学部 1,2年	男子 教育学部 3,4年	男子 経済学部 1,2年	男子 経済学部 3,4年	男子 夜3,4年	女子 教育学部 1,2年	女子 教育学部 3,4年	女子 経済学部 1,2年	女子 経済学部 3,4年	全体平均%
このままでよい	人	61	48	116	50	17	93	72	5	7	44.4
	%	39.4	41.7	44.8	45.5	47.2	48.9	40.2	38.5	53.8	
1年間で2種目，2年間で4種目のように多種目を経験したい	人	45	43	45	31	9	41	75	5	6	31.7
	%	29.0	37.4	17.4	28.2	25.0	21.6	41.9	38.5	46.2	
第2，第3希望へ回されることがあっても1種目を2年間続けたい	人	21	12	74	12	3	34	18	3	0	13.6
	%	13.5	10.4	28.6	10.9	8.3	17.9	10.1	23.1	0	
何か他の案を考えてほしい	人	27	10	17	9	7	12	12	0	0	8.1
	%	17.4	8.7	6.6	8.2	19.4	6.3	6.7	0	0	
そ　の　他	人	1	2	3	2	0	0	2	0	0	0.7
	%	0.6	1.7	1.2	1.8	0	0	1.1	0	0	
無　記　不　明	人	0	0	4	6	0	0	0	0	0	0.8
	%	0	0	1.5	5.5	0	0	0	0	0	
対　象　者　数	人	155	115	259	110	36	190	179	13	13	